

2020(令和2)年度 各館の特色ある活動報告

滋		賀	大	学
滋	賀	医	科	学
京		都	大	学
京	都	教	育	学
京	都	工	織	学
大		阪	大	学
大	阪	教	育	学
兵	庫	教	育	学
神		戸	大	学
奈	良	教	育	学
奈	良	女	子	学
和	歌	山	大	学
奈	良	先端科学技術大学院大学		
国	際	日本文化研究センター		
国	立	民族学博物館		

2021(令和3)年4月19日



令和2年度 滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

(2021.3月現在)

1. 本館

場所	彦根キャンパス(経済学部・データサイエンス学部)
蔵書	394,973冊
入館者数	39,135人

2. 教育学部分館

場所	大津キャンパス(教育学部)
蔵書	264,237冊
入館者数	24,551人



大津キャンパス

1

重点領域1. 知の共有

1. 学認フェデレーション

学認フェデレーション「学認」の利用により、本学が契約している電子ジャーナル・データベースについて、「しがだいID・パスワード」の認証を経ることで学内と同様の環境での利用が可能となった。

2. 電子ジャーナル整備

コロナ禍でのオンライン授業や在宅勤務による電子ジャーナル・データベースの利用増加が予想されたため、同時アクセス数の増加等の対応を行うことで、利便性の向上を図った。

3. デジタル化資料送信サービス

国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を図書館の館内で利用できるサービスとして、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを提供し、利用者の利便性を図っている。

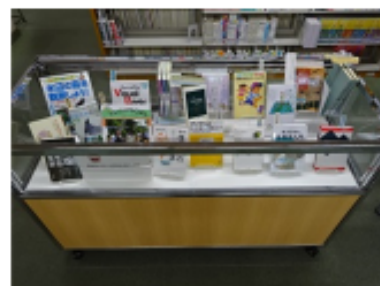
重点領域2. 知の創出

1. 個別企画展示の実施

「論文・レポート作成に関する図書」、「感染症について知ろう!!」等、時宜に即したテーマで実施し、図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。

《展示テーマ》

「古本募金による収入で購入しました!」、「臨時休館中に届いた新着図書」、「謎」、「日経サイエンスのおすすめ本特集」、「SDGs」、「ノーベル文学賞?」、「教員がおススメする本」、「春の本」など



2. 第34回教科書展の開催(大津キャンパス)

「一温故知新、可以為師矣(故きを温(たづ)ね新しきを知る、以て師と為るべし)」をテーマに「教科書展 論語」を開催。「論語」に登場する「温故知新」を始めとした現代にも通じる考え方・道徳規範等を振り返る貴重な機会となった。



3. 所蔵貴重書の公開展示(彦根キャンパス)

所蔵資料の調査及び評価のもと、一部貴重資料を展示ケースで解説付きで公開。令和2年度は、楽観的自由放任主義経済学の元祖とされるバ스티ア『バ스티ア全集』(全7巻)や、詩人ルシェによって翻訳された、経済学ではおなじみのアダム・スミス『国富論』の仏語版初版が展示された。



バ스티ア『バ스티ア全集』(全7巻)(1854-1864)

4. リユース本の活用(彦根・大津キャンパス)

例年実施している、教職員から提供された不要図書や、図書館からの除籍図書の持ち帰りイベント「図書リユース市」について、令和2年度はコロナ禍の状況を考慮し実施を見送った。ただし、両館にて随時「持ち帰りコーナー」を設置していたことで、教職員から提供された不要図書や図書館の除籍図書のリユースを推進し、学生の図書館や図書への興味を高める契機や勉強交流の場として、有意義な活動となった。

5. 文献取り寄せサービスの費用支援・郵送サービスの実施

学部生・大学院生を対象に、卒業論文・修士／博士論文作成およびゼミでの研究発表等への支援として、他大学の図書や論文等の複写物の取り寄せにかかる費用を、大学が負担するキャンペーンを年間を通して実施。(4月～1月)

また、コロナ禍で来館が難しい学生を対象に、各種資料を郵送で自宅に届けるサービス(郵送サービス)を実施した。(令和2年5月18日～令和3年3月31日現在も継続中)

重点領域3. 知の媒介

1. 学生との交流の場

コロナ禍により、例年実施している新入生を対象にした大学入門セミナーは開催できなかったが、学生が利用する学習管理システム(SULMS)にパワーポイントやPDFの資料(図書館情報リテラシー教育・文献検索の基礎等)を作成・掲載することで対応した。

教育学部分館ではさらに、図書館用語、図書館全般の情報、蔵書検索の方法、図書館の利用案内などをクイズとして盛り込んだ図書館クイズラリーを実施し、楽しみながら図書館情報リテラシーの向上を図った。(10月27日～11月9日)

学生参加による図書選定として、本館では学生ボランティアの図書選定学生委員会を通じ、分館では分館図書委員会を通じ、両館で230冊程度を選定した。



2. 職員研修への参加

- ・令和2年度図書館等職員著作権実務講習会(文化庁)
- ・漢籍担当職員講習会(初級)(京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター)
- ・LIMEDIO Seminar 2020(株式会社リコー)
- ・学術コミュニケーション技術セミナー(JPCOAR Monday)(オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR))
- ・漢籍担当職員講習会(中級)(京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター)
- ・令和2年度障害者サービス担当職員向け講座(国立国会図書館)
- ・2020年度大学図書館シンポジウム(国公私立大学図書館協力委員会(JULIB)・国立大学図書館協会東京地区・日本図書館協会大学図書館部会の共催)
- ・2020(R2)年度大阪大学職員研修(大阪大学附属図書館)
- ・令和2年度国立大学図書館協会近畿地区助成事業講演会(国立大学図書館協会近畿地区協会)
- ・ウェブ講演会「新しい日常」における図書館(国立国会図書館)
- ・デジタルコレクション活用フォーラム(国立国会図書館) 等

令和2年度 滋賀医科大学附属図書館 特色ある活動

《重点領域1》

- **電子リソースの整備**
 - ・ コロナ禍における教育・研究支援として、動画教材や電子書籍等の電子リソースを整備
 - ・ 期間限定で無償提供されたコンテンツ等の情報をまとめたポータルページを作成
- **文理融合型教育プログラム STEAM 教育への支援**
 - ・ 教養関係図書充実のため、教養科目担当教員に選書を依頼し、学生アンケートを実施
- **著作権に関するサポートの提供**
 - ・ 「授業目的公衆送信補償金制度」に関して学内におけるとりまとめを担当
 - ・ 著作物利用に関する情報提供を行い、個別相談に対応

《重点領域2》

- **新入生ビブリオバトル（10/19 開催、26 名参加）**
 - ・ 10 月から対面授業が始まった新入生のため、生命科学講座教授 3 名が企画
 - ・ 新入生 3 名と教職員 2 名がおすすめ本を紹介
(新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、開催)
- **図書展示**
 - ・ 教職員との連携、学生協働、学内イベント・セミナー連携、他機関連携をテーマに
 - ・ 年間を通じて図書展示を実施（令和2年度 計 10 回実施、うち 4 件はミニ展示）
- **環境整備・スペース転用**
 - ・ 集密書庫のカビ汚染された資料をクリーニング（一部廃棄）
 - ・ 開架雑誌を集密に移し書架を撤去し、講義室として提供（2020 年 10 月～2021 年 3 月）
(4 月以降、図書館の学習スペースとして改修予定)

《重点領域3》

- **情報リテラシー教育の実施**
 - ・ 遠隔のみ（e-Learning システムによるオンデマンド配信または Zoom によるリアルタイム配信）、対面のみ、遠隔と対面の併用 3 つの形式による講義や研修会を実施
 - ◇ **学部生対象（7 件・28 回）**
 - ・ 情報科学（医・看護学科 1 学年）・看護研究方法論（看護学科 2/3 学年）
 - ・ アカデミックライティング（医学科 1 学年）・アカデミックスキル（看護学科 1 学年）
 - ・ 看護学科 3 学年文献検索講習会・脳神経内科臨床実習文献検索講習会（医学科 5 学年）
 - ◇ **大学院生修士・博士課程対象（3 件・4 回）**
 - ・ 医学総合研究特論（医学専攻博士課程）・看護学研究方法論Ⅰ（看護学専攻修士 1 年）
 - ・ 看護学研究方法論Ⅳ（看護学専攻修士 1 年）
 - ◇ **職員対象（2 件・6 回）**
 - ・ 看護部研修会・研究倫理教育研修会

2020（令和2）年度特色ある活動報告

2021年4月
京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

- (1) KURENAI が世界リポジトリランキング第3位に（2020年9月）

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1387062>)

- (2) 粗悪学術誌に関する注意喚起のためのリーフレットをリニューアル（2020年9月）。加えて、学内の実際の体験談を追補し、よりメッセージ性を高めたリーフレットを作成した（2021年1月）。

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1386959>)

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1388639>)



（2020年9月）



（2021年1月）

- (3) 図書館機構のオープンアクセス・オープンサイエンスに対する取り組みが評価され、図書館機構オープンアクセス推進プロジェクトチームが令和2年度国立大学図書館協会賞を受賞した（2020年6月）。

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1386563>)

- (4) 「京都大学の部局等における研究データ管理・公開に関する実施方針策定のためのガイドライン」・「実施方針ひな形」を策定した（2021年3月）。

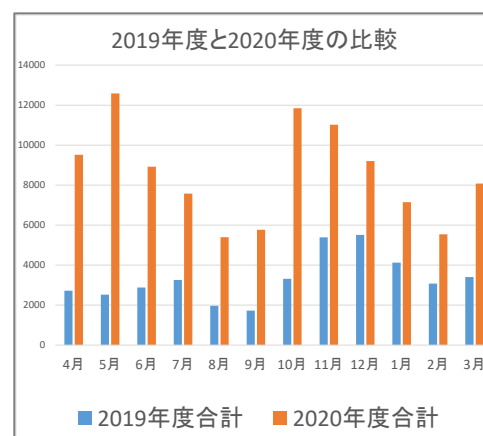
- (5) 本学の教員著作（日本語学術書籍等）を KURENAI から公開する事業を開始した。教員の希望を募り、該当する出版社に許諾確認を行った。51名 366件の公開希望のうち、61件公開可、76件不可の出版社回答があった。次年度に公開作業と継続調査を行う予定である。

- (6) 2018年から参加していた MDPI 社の機関オープンアクセスプログラム（論文投稿料（APC）10%割引）を、2020年10月31日をもって終了した。

2. 学修・教育支援の推進

- (1) 新型コロナウイルス感染症により遠隔講義・自宅学習が急増した状況を受けて、学修環境の整備のため以下の電子ブック緊急整備を実施した。

区分	内容等
基礎的教養のための書籍	岩波書店『現代人の教養』サブスクリプションパッケージ（500冊）
授業科目に即応した教科書等	2020年度前・後期/2021年度前期の授業に対応する教員推薦図書（408冊）
学習の基盤となる基本的資料群	コロナ対応学内予算措置により主要な叢書・シリーズ・セットを整備（4,329冊）



【国内プラットフォームの電子ブックアクセス数】

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応として、オンラインによる人的支援を行った。

① 大学院生スタッフによる、Zoomを使ったオンライン学習相談を開始した（附属図書館 2020年6月）。

② オンライン講習会を実施した。（一部のみ掲載）

・図書館機構オンライン講習会

「論文投稿で後悔しないために-身に付けておくべきジャーナルの知識-」

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1386519>)

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1388383>)

「留学生学習サポート強化週間」（人文社会系の研究方法、学術的な日本語の使い方など） (<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1387437>)

「卒論ブラッシュアップ講座」

(<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1387412>)

・「15分でわかるZoomなレポート準備講習会 レポートを書くために(初級)(中級)」

(吉田南総合図書館) (<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1386007>)

・各種DB講習会（吉田南総合図書館、経済学部図書室、薬学部図書室）

3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 大正時代から永久寄託されていた「菊亭文庫」が附属図書館に寄附され、歌道・音楽・故実等の典籍、文書、美術品等約 1800 点の受け入れを行った（2021 年 1 月）。

(2) 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」、科学研究費補助金、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金等の様々な外部資金を獲得し、附属図書館所蔵の大惣本、藏経書院文庫、谷村文庫猪苗代家本、菊池三溪自筆稿本、菊亭文庫等の貴重資料の電子化・公開を進め、社会に貢献した。

(3) 国立国会図書館と連携して、京都大学蔵書検索 KULINE の貴重資料のメタデータを国立国会図書館サーチから検索できるようにした。検索結果から「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」にリンクできるため、直接電子化資料が閲覧可能となり、学内外の研究者や一般利用者からの本学貴重資料への発見性・利便性が高まった。

(4) 本学の貴重書デジタルアーカイブで公開している「肥後国海中の怪(アマビエの図)」が、SNS や報道機関に取り上げられ、さまざまな商品デザインに使用されるなど注目を集めた。画像利用の自由化が社会貢献につながる実例となった。



4. 全学図書館機能の基盤整備（新型コロナウイルス感染症への対応）

- (1) 学生向けに、新型コロナウイルス感染症対策に伴う各図書館・室のサービス状況と、自宅学習のための電子リソース活用に関する案内サイトを作成した。さらに、蔵書検索システム（KULINE）にもバナーを設置し、資料の所蔵先確認と同時に開館状況等が確認できるようにした（2020年8月）。



- (2) 学内の図書室の閉室等が続く中、学生が附属図書館に集中することを避けるため、図書館以外の学習の場として、京大百周年時計台記念館内のホールに臨時自習室を開設した（2020年7～8月）。

- (3) 本学の卒業生から空気清浄機 100 台の寄贈を受け、学習環境の安全性向上のため、附属図書館と各学部図書館・室に、配置した（2021年1月）。



- (4) 自学自習環境の安全性確保のため、附属図書館の自習用の閲覧机にアクリル板の間仕切りを増設した（2021年1月）。

- (5) 在宅勤務の際にも図書館業務システムを使えるようにするため、自宅からの接続方法やセキュリティ要件を明示した。複数の図書館・室が実際に使用し、得られたノウハウや注意点や、自宅環境で業務を行う際の課題を職員間で共有した（2020年11月～2021年3月）。

- (6) 図書館職員がコロナ禍での大学図書館サービスについて情報共有を行い、その結果を「新型コロナウイルス感染症防止対策から見たこれからの図書館サービス報告書」（図書館機構業務改善推進会議新型コロナウイルス感染症対応状況調査チーム）として取りまとめ公開した（2021年1月）。(<http://hdl.handle.net/2433/261000>)

令和2年度 京都教育大学附属図書館 特色ある取り組み

1. 図書館利用・読書啓発の働きかけ

平成27年より「わくわく！KYO²ライブラリー図書館活性化プロジェクト」をスタート。

図書館に行こう！→図書館を知ろう！→図書館で過ごそう！→図書館を使おう！→図書館をひろげよう！

●「図書館に行こう！」（＝親しみやすい場所にする）

➢就職担当部署との連携

- ・就活ゼミ、就職セミナーを研修・セミナー室で実施
- ・教採セミナー等で学修支援員を案内

●「図書館を知ろう！」（＝学生との距離を縮める）

➢学修支援員の配置（平成27年10月～継続）

理科、数学教育専修の大学院生をラーニング commons に配置。

対面授業再開後の学期中の月～金の午後に実施。対面授業休止中は図書館資料のレビューや相談事例などを掲示。

➢リクエストの強化

☆話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」

学術研究・教養目的以外の学生からのリクエストおよび図書館員が選定した新刊、話題書等を対象に利用者が投票。得票数の高いものを購入。15万円／年を予算措置。6月以降、9月を除く毎月実施。

☆選書ツアー（ブックハンティング）の実施

昨年までは京都市内の書店で実施していたが、今年度は11月にオンラインで実施。2年生～院生14名が参加、162冊購入。

☆通常リクエストの推進

前年水準を維持（113件）

●「図書館で過ごそう！」（＝館内の環境整備、サービス向上）

➢日曜開館の継続実施

試験期の日曜日を開館。前期2回、後期は2回実施。

➢館内貸出物品の整備

消毒などの対策を行い、小型扇風機やブランケットの館内貸出を維持

●「図書館を使おう！」（＝資料・施設の利活用）

➢図書展示

- ・保育士試験対策コーナー（6/5～6/27、11/19～12/12）
- ・ブックレポート応援コーナー（10/28～11/28）

授業担当教員に協力し、ブックレポート課題向け図書およびそのレポートの展示



➤企画展示室等の利用による展示等の開催

学生や教職員による教科・学習研究等に関連する企画展示：4件

➤英語多読資料の配置変更・授業に連携

授業担当教員に協力し、英語多読資料を The Kyoto Scale に対応した配架を継続、追加資料も対応。

●「図書館をひろげよう！」（＝他館、他部局等との連携）

➤京阪奈三教育大学との連携

現物貸借無料化、双方向遠隔授業パスファインダー

➤府立図書館との連携

K-Libnet 参加 2020 年度実績：貸出 39 件、借受 77 件

2. 新型コロナ感染防止対策

緊急事態宣言による大学休止を受けて4月21日から6月1日まで臨時閉館した。オンライン授業開始に伴い、5月14日から図書郵送貸出サービスを実施した。以降、対面授業休止期間は開館状況に関わらず、郵送貸出を再実施。（181件申込、569冊貸出） また、対面授業休止中も短縮開館を維持し、オンライン授業等の受講場所としても利用された。

3. 利用者教育

●初年次教育科目における新入生図書館ガイダンスの実施

Kyokyo スタートアップセミナー（1回生前期）において、対面授業形式で図書館ガイダンスを実施。
（6月29日～7月30日 全7回実施、13専攻323名）

●各種講習会の開催

- ・論文検索講習会、データベース検索講習会
- ・オーダーメイド講習会

4. 地域貢献

●読み聞かせ会「えほんのもり」

児童書コーナーでの幼児教育科の学生による絵本カードの作成、今月の絵本紹介など。定期開催していた学生による読み聞かせ会は中止された。

5. その他

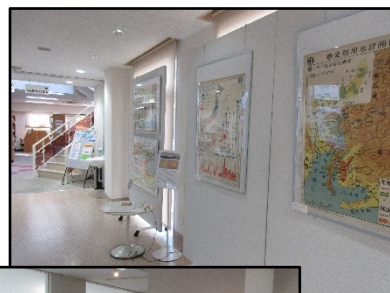
●教育資料館「今月の逸品」 展示協力 附属図書館1階渡り廊下

6月以降2ヶ月毎展示替 「農業、食料生産にかかわる教材掛図」などを展示

●教育資料館主催 第2回教育展の共催

『「おかね」の歴史とデザイン～京都教育大学所蔵古紙幣の世界～』を附属図書館企画展示室で展示

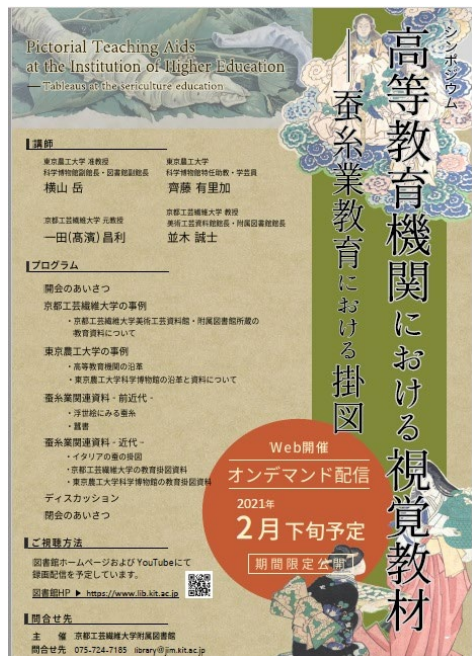
11月19日（木）～12月25日（金）



京都工芸繊維大学附属図書館 令和2年度特色ある活動の報告

1. シンポジウム「高等教育機関における視覚教材 -蚕糸業教育における掛図-」

標記シンポジウムを令和3年2月5日(土)にオンラインで開催した。



講師:

東京農工大学准教授・科学博物館副館長

横山 岳

東京農工大学科学博物館特任助教・学芸員

齊藤有里加

本学元教授

一田 昌利

本学教授・美術工芸資料館館長・

附属図書館館長

並木 誠士

講演内容:

各大学の視覚教材事例

蚕糸業関連資料(前近代、近代)

講演後のディスカッションでは、活発な意見交換が行われた。

本シンポジウムは、本学附属図書館のYouTubeチャンネルで令和3年3月4日(木)から令和3年5月7日(金)まで公開する。

2. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成30年度より、ML連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。令和2年度は企画展示「日本の文様 -伝統から近代まで-」を実施した。

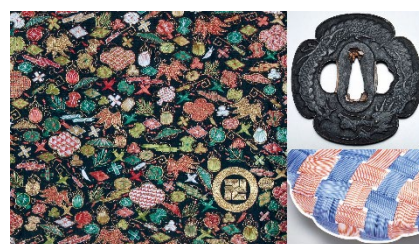
○開催期間

令和3年1月12日(火)～2月27日(土)

図書館が所蔵する文様関連資料の展示を行った。



展示資料



京都工芸繊維大学美術工芸資料館 展覧会

日本の文様 -伝統から近代まで

2021年1月12日(火)～2月27日(土)



展覧会チラシ

2020（令和2）年度大阪大学附属図書館の特色ある活動

◆教育・学習支援

○コロナ禍において、主に以下の対応を行った。

◆ 図書館閉館中、図書の宅配貸出サービスを行った。

①大学院生・学部4年生（学位論文・卒業論文執筆に必要な資料）：合計 938 件（3,058 冊）

②教職員（授業に必要な資料）：合計 93 件（328 冊）

費用は、①については大学が負担、②については図書館が負担した。

◆ 生命科学図書館は、医学系のセンター館として、閉館中も医療従事者に対する文献提供を継続した。

◆ 新型コロナウイルスの感染が拡大している中、海外・国内のデータベース提供機関や出版社が、無償でのデータベース・電子ジャーナル・電子ブックの公開を進めた。それを附属図書館の Web サイトに整理して掲載した。

◆ 学生用電子ブックの整備を進め、利用が約 3 倍に増加した。

◆ 緊急事態宣言が終了した後は、感染対策を行いながら、図書館サービスを再開した。大学院生 (TA) による LS（ラーニング・サポータ）の学習相談は、オンラインでの試行も順次開始し、4 館合計で 406 件の学習相談や質問に対応し、うち 74 件はオンライン相談であった。

◆研究支援

○「大阪大学オープンアクセス方針」説明会を開催

2020 年 4 月に策定された「大阪大学オープンアクセス方針」を教員に周知するため、オンライン説明会を 10 回（57 名参加）開催し、その後さらに各部局の教授会等での説明会を 18 部局（うち 10 部局はオンライン）で開催し、約 750 名の参加があった。



○エルゼビアセミナーを開催

「学術論文投稿推進セミナー」として、大阪大学経営企画オフィス URA 部門と共催で開催した。

日 時： 2021 年 2 月 24 日（水）13:30～15:40

会 場： オンライン（Zoom ウェビナー）

参加人数： 43 名

（前半）「英語論文執筆セミナー～Scopus を使って効率的に～」 庄子栄美氏

（後半）「SciVal を使って研究者/チームの研究力を分析する」 高橋昭治氏

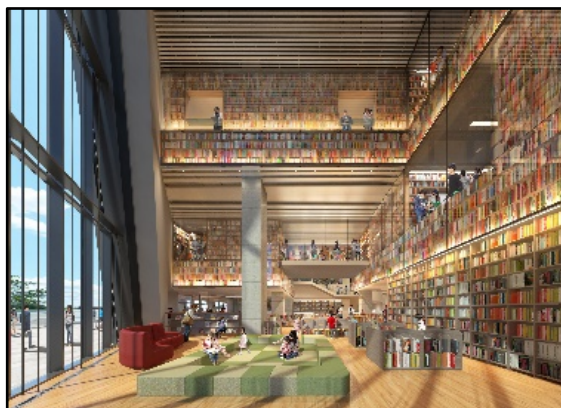
講師はいずれも エルゼビア・ジャパン カスタマー・コンサルタント

◆社会貢献

○外国学図書館のキャンパス移転、新たな図書館へ
令和3(2021)年4月に、大阪大学の箕面キャンパスが移転した。

附属図書館 外国学図書館は、1月遅れて、箕面市立図書館と一体化した「箕面市立船場図書館」として、5月1日に開館予定である。

5月1日(土) 午前中 開館セレモニー
午後1時に開館



吹き抜け部 パース図

箕面市立萱野南図書館（蔵書約11万冊）および外国学図書館（蔵書約60万冊）の蔵書を併せ持った図書館となり、管理運営は大阪大学が無償で指定管理者として行う。この形は全国でも初めてのことである。

2020年度は、開館に向けて、運用方針について箕面市立図書館との協議・調整を続け、各種規程等の整備、引っ越しや新図書館のサイン計画等の準備を行った。

◆その他

○ネーミングライツ導入

大阪大学とタワー パートナーズ セミコンダクター株式会社（以下、TPSCo）は、2021年1月25日に、理工学図書館西館1階のラーニング・コモンズ及びラウンジへのネーミングライツ導入に関する協定を締結した。大阪大学が2018年8月に教育研究環境の向上や施設等の有効活用を目的にネーミングライツ制度を導入して以来、学内では3件目、附属図書館では初である。

2021年3月11日（木）16時30分より、西館1階 TPSCo Commons・TPSCo Lounge にて「理工学図書館ネーミングライツオープニングセレモニー」を開催した。



TPSCo Commons



TPSCo Lounge



セレモニーでのテープカット

○生命科学図書館へのアーカイブズ移転

箕面キャンパスにあった大阪大学アーカイブズが、キャンパス移転を機に吹田キャンパスの生命科学図書館内（4階）に移転し、2021年1月から事務を開始した。生命科学図書館の4階にあった図書館の事務室は1階に移動し、これまで1階と4階に分かれていた図書館事務室を1階に統合し、事務の効率化をはかっている。

令和 3 年 4 月 19 日
大阪教育大学附属図書館

2020 年度 大阪教育大学附属図書館の特色ある取り組み (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

1. 新型コロナウイルス感染症対策の工夫

- 1) 一定条件を満たす学生に、大学の送料負担にて、貸出希望図書を郵送するサービスを行った。(5 月 11 日～6 月 12 日)
- 2) 予約により、図書等の貸出のみ、対面で行う館内サービスを開始した。(6 月 15 日～6 月 30 日)
- 3) 開館時間と入館者数を制限し、事前予約制の開館を実施した。(7 月 1 日～8 月 7 日)
- 4) 開館時間と入館者数の制限を続け、予約不要の開館を実施した。(8 月 11 日～)
- 5) 夏季休暇中の 1 人あたりの貸出可能冊数について、通常の 10 冊に加え、春季長期貸出として増数した 10 冊にさらに 10 冊を増数し、合計 30 冊とした。(7 月 31 日～10 月 15 日)
- 6) 開館にあたって、閲覧室等の日常的な消毒作業および、密接を避けるための座席利用制限を継続している。
- 7) 換気のため、空調効果の妨げにならないよう、終日 5～10cm ほど館内の窓やドアを開放している。
- 8) グループ学習室やラーニングコモンズを個人自習室として開放している。
- 9) 電子資料への学外からのアクセス方法をまとめた Web ページを作成し、コロナ対策として臨時に利用範囲の拡大措置があったデータベース等の情報についても閲覧できるようにした。

2. 電子資料の利用促進

- ・ 6 月 2 日～8 月末日まで電子ブック試読サービスを導入し、利用・リクエストのあったものを購読した。
- ・ 価格上昇が続く電子リソース経費について、2021～2023 年度（3 年間）の固定化。Elsevier 社の ScienceDirect について、国立教育系大学図書館協議会サブコンソーシアム契約により価格上昇を抑制。雑誌 Nature の購読中止により、2020 年度並みの配分額を向う 3 年間維持することを役員協議会にて承認済み。

3. デジタル教科書への対応

- ・ 紙の教科書を網羅的に収集しつつ、文部科学省「GIGA スクール構想」の実現に向けた教員養成系大学の取組みとして、デジタル教科書利用環境の整備・維持及び、本学構成員の理解促進に向けた普及活動を行った。2021 年度は 2020 年度の約 2.4 倍の予算配分を受け、活用を推進する予定。

- ・ 2020 年度実績
10～12 月：デジタル教科書基本操作について、学生サポーターによる支援実施
11, 12 月：小学校算数デジタル教科書説明会の開催（2 回）

4. 企業との連携

- ・ 教科書出版社の東京書籍とネーミングライツ契約を締結し、9 月から連携を開始（3 年契約）。ラーニング・コモンズ「まなびのひろば」を「東京書籍 Edu Studio」と命名し、デジタル教科書体験コーナーを設置・提供。
- ・ エプソン販売との包括連携協定により、電子黒板機能の最新プロジェクターを設置。
- ・ Google と今後の連携を見据えた協力関係を構築。chromebook 20 台を購入。

5. 授業支援

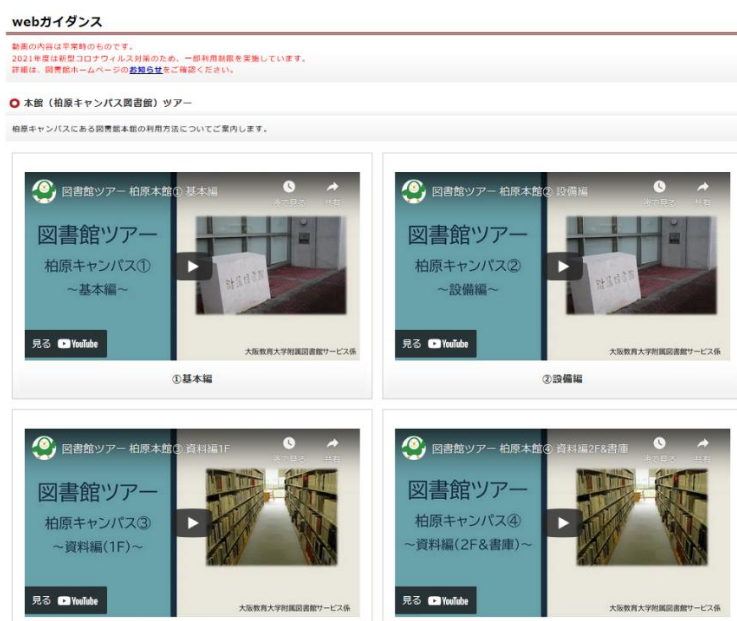
- 1) 改正著作権法第 35 条の施行（4 月 28 日）を受けた授業支援の一環として、教員による所蔵資料の送信可能（デジタル）化作業をサポートした。
- 2) 天王寺分館にてオンライン教材にて、初等教育教員養成課程（夜間）1 年次への図書館ガイダンスを実施した。

6. サポートスタッフによる学習支援

- ・ 10 月から、週に 3 時間程度、大学院生によるサポートスタッフ（計 3 人）をカウンター近くに配し、学習支援を行った。

7. 図書館 web ガイドの公開

- ・ 利用者が、いつでも、どこからでも視聴できるオンラインのツアー動画を公開した



8. 全面査読制紀要の継続刊行

- ・ 2019（令和元）年度から実施している査読付き紀要について、二回目の第 69 巻を 2 月に発行した。

9. 教育資源のオープン化

「我が国における教育の充実と文化の発展に貢献し、地域と世界の人々の福祉に寄与する。」という大学の使命を果たすため、教育大学として保有する教育資源を広く国内外に発信する「オープンエデュケーションプラットフォーム」の環境を整備中。誰もが自由にアクセスできる教育資源を長期的に保存・公開する予定で準備している。

10. イベント

- ・ 7 月 1 日～17 日館内展示「学校安全特集」を実施
- ・ 3 月 10 日人材育成企画「人事交流者の成果報告会」を実施。阪大、神戸大、大教大間の人事交流の成果を振り返ることで一年を総括し、各大学での学びの機会にもした。
- ・ 3 月 19 日学内研修「デジタル時代の教科書著作権について」を実施

10. その他

- ・ 2020 年度 2 月にシステムリプレイスを実施。

兵庫教育大学附属図書館 令和2年度活動報告

1 新型コロナウイルス感染症対策

消毒液設置や座席間引き等の一般的なコロナ対策に加え、以下の対策を実施した。

- ・在宅学習支援情報ウェブページ(note.com)開設
- ・書籍消毒器の設置
- ・郵送貸出サービスの実施

2 オンラインサービスの展開

オンラインにより実施が可能な学習支援事業及び文化事業を実施した。

- ①文献探索講習会の Youtube 動画及び実践トレーニング教材を作成・公開し、クラスセミナーや大学院の授業で活用された。
- ②加東・神戸両キャンパスの学生を対象として、ZOOM による兵教オンライン文献探索相談会を開催した。
- ③教員と連携し、本を起点に自由な対話を楽しむ兵教オンライン読書会を企画・開催した。



①



②



③

3 BLUE CLASS KOBE の広報活動再開

クラウドファンディングにより活動資金を調達し、準備を進めている BLUE CLASS KOBE について、2021 年 4 月 18 日・24 日の開催に向け、広報活動を行った。



4 視覚障害者へのサービス

本学に入学した視覚障害学生の情報利用環境を整備するため、学内規定を整備し、出版社へのデジタルデータ提供依頼や点字ボランティア団体への協力依頼などの活動を実施した。

また、国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスの送信承認館の申請を行った。



視覚障害学生を特集で取り上げた図書館広報誌 Listen Vol. 19

5 教材文化資料館オンライン展示室の開設

インスタグラムをプラットフォームとして、教材文化資料館の過去 12 年、23 回分の企画展における展示物や展示風景等の画像アーカイブを公開した。



令和2年度 神戸大学附属図書館活動報告

I.学修サポート

■ 電子ブックリクエストキャンペーン

平成22年度より毎年実施している学生選書ツアーに代わり10月～11月の2ヶ月間、学生がオンラインで電子ブックを試読し、希望図書をリクエストできるイベントを実施しました。53名の参加があり、114件の申込のなかから68点を購入しました。選定された図書は本学構成員が学内外からオンラインで読むことができます。

■ オンライン読書室

オンライン会議システムを使用して、学生・教職員が本を読む時間を共有する交流イベントを開催しました。

第1回：8月31日（月）～9月4日（金）

9月7日（月）～9月11日（金）

のべ参加者数は、21名でした。

第2回：12月2日（水）、9日（水）、16日（水）

のべ参加者数は、4名でした。

■ 学生チーム「ULiCS」の活動

－「THE ULiCS TIMES」の発行

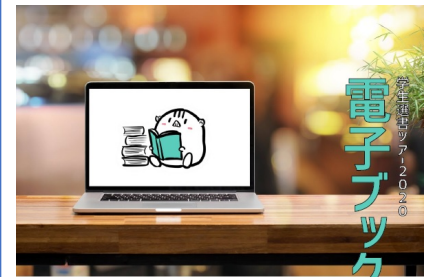
昨年度に続き、ULiCSの団体誌としてVol.7（4月）、8（10月）を10月に発行しました。学内の各図書館での配布のほか、附属図書館HPからPDFを公開しています。

－ ULiCS 文庫の展示

ULiCSの活動に関わる図書を文庫として展示するコーナーにおいて、一人につき一段分を担当して、自由なテーマで図書を選び展示しました。

【各テーマ】

- ・兵庫を舞台とした物語にスポットを当てた『兵庫を知る』
- ・「観る」ことではなく、「読む」ことに焦点をあてた『演劇を読む』
- ・ロシア、ウクライナ、バルカン半島など『新しい世界』を見つける
- ・手紙が鍵になっている図書『手紙を想う』



10/1(木)～11/30(月)
電子ブック6万冊が試読可能！
全ページ読みたいものは図書館へ
購入をリクエストできます。

■対象者
神戸大学の学部生・院生
■対象資料
学部生の学習・教養のための資料（1人5冊まで）
■リクエスト方法
Maruzen E-book Library (<https://elib.maruzen.co.jp>)
より電子ブックをリクエストします。リクエストボタンから
購入をご依頼ください。
※予算がなくなり次第、リクエスト受付を終了します。
詳細は附属図書館ウェブサイト
(<https://lib.kobe-u.ac.jp/libraries/17602/>)
よりご確認ください。
神戸大学附属図書館



■ 来館できない利用者・遠隔授業への対応

ー郵送による資料貸出

本学在籍中の学部生・院生で来館が難しい方に対し、郵送での資料貸出を行いました。

合計件数 314 件、合計冊数 1,250 冊

ーチャットによるレファレンス受付

非対面型サービスとしてオンラインチャットで利用案内や文献の調べ方などの相談を受け付けました。期間：5/25～3/31 計 146 件

ー「在宅学修・研究に利用できるコンテンツ」の周知

新入生向けおよび学生/研究者向けに在宅で学修・研究に利用できるコンテンツをまとめ、案内を行いました。また、教員向けには、遠隔授業の著作権等に関する情報をまとめました。

ー遠隔授業サポート

初の遠隔授業全面実施に際して、学内に「遠隔授業サポートチーム」が設置されました。教員向けサポートのひとつとして、授業の「予行演習」を行うサービスが実施され、図書館職員 9 名が参加しました。期間：4/24～5/1 計 12 回



II. 社会連携・情報発信

■ デジタルアーカイブでサンテレビジョンの震災映像を公開

阪神・淡路大震災の発生から 26 年を迎えるにあたり、震災文庫デジタルアーカイブにて、地元ローカルテレビ局である株式会社サンテレビジョン撮影・制作の阪神・淡路大震災関連映像「阪神・淡路大震災」(1995 年 6 月 29 日制作 19 分 06 秒)を 1 月 14 日に公開しました。

公開にあたっては、本学人文学研究科地域連携センターの協力により、デジタルアーカイブ学会が検討を進めている「肖像権ガイドライン案 (第 3 版)」を参考に映像を確認し、サンテレビジョンと協議を行いました。

■ デジタル資料展

「古典籍さまざま～近世の出版物より～」

附属図書館では毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施しています。しかしながら本年度は通常どおりの実施ができないため、2018 (平成 30) 年度に開催した資料展の内容を、WEB 公開しました。科学・技術と文学・戯作の分野における江戸時代の刊本を中心に紹介しています。

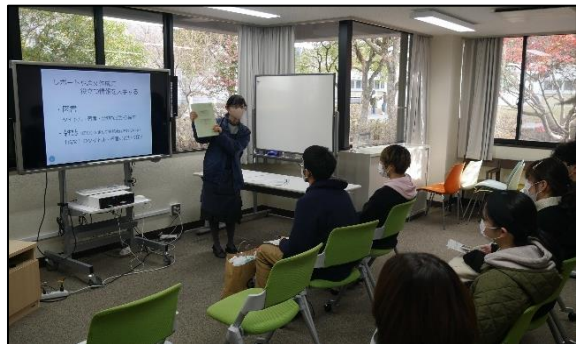


1. 図書郵送貸出サービスの実施

新型コロナウイルス感染症の影響により大学の方針として学生の入構が原則として禁止されたため、図書館も臨時休館とした。学生の自宅学習の支援のため、図書の郵送貸出および所蔵雑誌等の複写物郵送提供サービスを実施した。1人5冊を上限としてメールで申し込みを受け付け、1人につき1回図書館が送料を負担して貸出を行った。当初は前期授業が終了する7月28日までの予定だったが、大学の入構制限が継続していたことから、夏季休業中までサービス提供期間を延長し、最終的に図書貸出は88件344冊、文献複写は5件108枚の利用があった。

2. 教員依頼による図書館ガイダンスの実施

新型コロナウイルス感染症の影響で、1年生対象の必修授業「大学での学び入門」内で実施していた図書館ガイダンスが中止となった。後期に対面授業が一部再開されたことに伴い、教員の依頼を受けて授業内での図書館ガイダンスを5回実施した。



3. 非対面授業の受講場所の提供

10月から対面授業と非対面授業が並行して実施されることになったため、対面授業のために登校した学生が合間の時間帯に非対面授業を受講できる場所として、図書館の閲覧席等を座席数を減らした上で提供している。特にラーニング・コモンズおよびグループ学習室といった、複数人で対話しながらの利用が想定される施設については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和2年3月以降閉鎖していたが、後期授業開始以降は発声を伴う非対面授業が受講できる場として活用されている。

さらに、少人数の対面授業等の開催場所（34回）としても図書館は活用されている。この中には対面・非対面のハイブリッド型授業や、講師がオンラインで海外から参加した授業もあり、図書館員がスムーズな実施のために機器操作などのサポートを行った。



4. オンラインブックハンティング・電子ブック試読サービスの実施

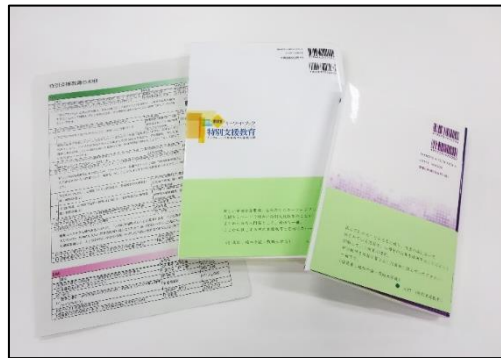
例年実施していたブックハンティング（選書ツアー）を、書店ウェブサイトを使用したオンライン形式で実施した。書店に用意してもらったアカウントを、参加学生に配布して図書を選定してもらった。店舗訪問型よりも時間・場所の制約が少ないといった利点がある一方で、学生からは内容を確認したうえで選びたかったという声もあった。



また学生の自宅学習支援のために、電子ブックの試し読みサービスも実施し、期間中利用の多かった図書やシラバス掲載図書を中心に電子ブックを整備した。

5. 授業関連図書コーナーの整備

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の協力のもと「初級」「中級」といったレベル付けを実施した。レベル付けされた図書には「初級」「中級」等のシールが貼られ、一部の本の帯には教員からの推薦コメントを掲載した。また、ブックガイド「特別支援教育の本棚」「国語教育の本棚」を作成し学生に配布した。



6. 展示会の実施

図書館 1 階ライぶらりギャラリーにて、図書館主催の展示会「正倉院模造復元品展」を実施した（10/26-11/7）。

また、「世界の絵本をのぞいてみよう」（10/5-10/16、国際交流留学センター）、「で・あいのある世界展」（1/20-2/10、「で・あいのある世界展」実行委員会・特別支援教育センター）、大学院「伝統文化発信法 II」成果展（2/15-2/19）、「#tankaの世界へ 喜多瑛優短歌展」（3/24-4/23、本学大学院生）といった学内の様々な展示企画にも活用された。



奈良女子大学近況(特色ある取組)

令和２年度に旧総合情報処理センターの区域及び２階閲覧室と書庫（開架）の一部を改修し、令和３年４月１日（木）リニューアルオープンした。

書庫資料の退避は最小限にし、自動書庫を活用して納め、できるだけ利用に支障が出ないよう工夫した。

・２階閲覧室に書架増設



・半個室席（ワークブース）を設置



・開架書庫内に閲覧席を設置



・可能な限り壁を取り払ってオープンなスペースにし、内装は地元材を中心に使用

・学習ブース（個室）を設置し、語学学習や遠隔授業、ウェブ面接に対応



- ・講義棟にあった情報処理教育室（2 室）を移設
空き時間はオープン利用とし、対面授業の合間のオンライン授業受講や自習に対応



＊COVID-19 感染拡大防止を考慮した利用者サービス対応（2021.4.1 現在）

- ・開館は通常通り
- ・閲覧席にアクリルパーテーションを設置
- ・閲覧席には番号を付け、行動を追跡しやすくしている
- ・グループ学習は人数を制限して再開
- ・センター所蔵資料の複写・郵送を送料大学負担で実施（複写料金は実費、後払い）
- ・センター所蔵資料の郵送貸出を実施、令和 2 年 10 月からは送料を大学負担とした（返送料は自己負担）
- ・他機関から取り寄せた文献複写の転送サービス（送料大学負担）
- ・学生用プリンター（ポイント制）のポイント追加（100pt/月→200pt/月）を令和 3 年度も継続

※1 枚 1pt（両面印刷でも 1pt）

（その他） 法人統合に向けて

令和 4 年 4 月の奈良教育大学との法人統合に向けて準備を進めているが、現在のところ、奈良女子大学学術情報センター（学術情報課）は図書館部門と情報処理部門を分割する予定である。事務組織も分け、平成 25 年度の図書館・情報処理センター統合前と同様の体制にすることを検討しており、「附属図書館」が復活することになる。

（参考）H25（2013）.4 附属図書館と総合情報処理センターの事務組織を統合

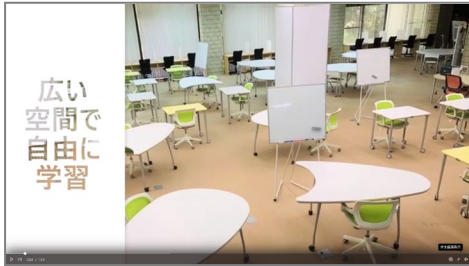
H26（2014）.4 学術情報センター発足

令和3年4月12日

1. 新型コロナ・ウイルス禍における学習支援活動

1) LMS（Moodle）を活用したオンラインによる学習支援

- ・新入生ガイダンス用の図書館案内をLMSに公開（4月）
- ・在宅でも利用可能な教育・研究用電子資料の紹介（4月）
- ・新入生対象の図書館紹介動画を新規作成、LMSに公開（5月）



- ・学生向け講習会を初めてオンラインで開催（2講習会）（6月）
 - ・ラーニング・アドバイザー（大学院生）による学習相談をオンライン（Zoom・メール）で開始（7月）
 - ・自宅で入手可能な学術情報の探索方法を含む「レポート作成に必要な情報の探し方」を新たに作成、過去の講習会資料とともにLMSに公開（9講習会）
- ### 2) 学生向け郵送貸出サービスを図書館経費により実施
- ・5月8日～22日、6月3日～16日、7月6日～8月3日
（申込218件、貸出冊数560冊）
- ### 3) 1年次生（初めて大学に来た学生を含む）向けイベントにおける図書館案内
- ・11月21日、22日（458名参加）

2. 第106回全国図書館大会和歌山大会において、県内大学等図書館（和歌山地域図書館協議会）と協力し、大学・短大・高専分科会①・②を企画・運営

- ・公開期間：11月20日～30日
- ・動画再生回数：1,526回
- ・テーマ・講演・報告
分科会①：ゲームを活用した情報リテラシー教育
分科会②：「特別コレクション」をどう活用するか

3. 県内の学校図書館司書への支援活動

- ・那智勝浦町、古座川町、新宮市の学校図書館司書を対象にビブリオバトルについて研修会開催（12/23 オンライン開催）

2020(令和2)年度奈良先端科学技術大学院大学附属図書館の特色ある活動の報告

1. 新型コロナウイルス感染防止対策について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、政府の緊急事態宣言および本学の「NAIST 活動制限指針」により、4月17日17時から当初5月7日まで、その後延長し5月18日9時まで附属図書館を閉館した。

学外者の利用は近隣地区の緊急事態宣言も考慮し、4月9日から10月1日、および1月14日から2月28日まで制限した。

開館を再開した後も、カウンターにパーテーション設置、ドアの開放、1日2回の卓上アルコール清掃、椅子の削減、シアターラウンジの完全予約を継続し、感染の拡大防止に努めている。

2. 博士論文にDOI付与

本学リポジトリ naistar に登録されている博士論文にDOI (Digital Object Identifier)を付与した。

国立国会図書館でDOIを付与済みの189件、および令和2年度修了14件(3月を除く)、2001-2015年の遡及入力908件を登録した。令和3年度においても遡及を進める予定である。

3. 電子ジャーナル・電子ブック等の学外アクセス環境の整備

大学で契約する電子資料(電子ジャーナル・電子ブック・データベース等)に学外からアクセスできるようにするため、Shibboleth 認証対応を再確認し、追加設定した。認証のインターフェデレーションである eduGain に参加し、GakuNin を超えた認証利用が可能となった。

また Shibboleth 認証に対応のない出版社の学外アクセス方法を調査し、登録方法等のマニュアルを整備した。

4. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。令和2年度の知の森コーナーのテーマは以下のとおり。

令和2年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ
第28回	2020年3月-8月	デザインを活かす
第29回	2020年8月-12月	環境を考える
第30回	2020年12月-2021年3月	メメント・モリ
第31回	2021年3月-	映画で語学



5. 附属図書館ニュースの発行

図書展示や講習会、図書館のサービス紹介等のお知らせをまとめた附属図書館ニュース「知の森へようこそ」の送信を開始した。「知の森コーナー」の更新のタイミングにあわせて、年3回の送信を予定している。

2020 年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

1. 『日文研図書館ニュースレター』の発行

新たな広報活動として、また、利用者とのコミュニケーションを図る手段として、日文研の所蔵資料や、オンラインで使えるデータベース等を紹介するニュースレターを本年 5 月から発行している。主として日文研所属者へメールで配信しているが、同内容を図書館のホームページにも掲載している。

2. 図書館総合展・図書館見学会_ONLINE への参加

11 月 1 日～30 日にわたって開催された「図書館総合展 ONLINE」の特別企画のひとつである「図書館見学会_ONLINE」に参加し、職員が企画・出演・製作した図書館紹介動画および館内 MAP、館内写真などを公開、ヴァーチャル見学会を実施した。

また、図書館案内動画は、YouTube の日文研チャンネルでも公開しており、国内外の図書館関係者、研究者へ日文研を広く知ってもらいたい機会としている。



https://2020.libraryfair.jp/online_tour/2020/37
(本稿作成時 2021. 4. 6 においては視聴可能)

3. 浪曲 SP レコードデジタルアーカイブ公開

本年 6 月、明治 30 年代から昭和 30 年代までに出版された、約 10,000 枚（約 5,500 タイトル）の浪曲（浪花節）SP レコードのデジタルアーカイブを新規公開した。公開音源には、日本で初めて録音された浪曲レコード・浪花亭愛造「後藤伏太郎の伝」と「東京より東海道駅名尽し」など、歴史的に貴重なものを多数含む。著作権保護期間満了分の音源に加え、全レコードの盤面画像、番付・ポスター等の関係資料画像をインターネット公開している。（<https://kutsukake.nichibun.ac.jp/rsp/>）



4. 日文研一般公開での図書館所蔵資料の展示

11 月 13 日から日文研ウェブサイトにて開催された「日文研一般公開」にて、所蔵資料のオンライン展示を行った。今年の一般公開テーマである「経験と記録～世界はいかに疫病と対峙してきたか」にあわせて、図書館で所蔵する日本医療文化史コレクション「宗田文庫」と西洋古典医学史コレクション「野間文庫」から、『麻疹後の養生』など医療関係の貴重資料をオンラインで公開した。



歌川芳虎画「麻疹後の養生」

5. テレビ・ラジオ番組の脚本資料の受贈

一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムより、同コンソーシアムが収集してきた放送脚本資料のうち、NHK ラジオドラマの脚本を中心とする約800冊が寄贈された。放送番組については、映像や録音が残っていないものが多く、脚本は日本の放送文化を研究する上できわめて貴重な資料となる。

今後数年にわたり、脚本5,500冊超の寄贈を受けることとなっており、順次整理し利用に供していく予定である。



6. 美術館・博物館等への図書館所蔵資料出展

- 「京都からやってきた妖怪たち～国際日本文化研究センターコレクション」（湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）、10月15日～12月22日）『妖怪四季風俗絵巻』ほか150点

- 「CHINA GRAPHY－日本のまなざしに映った中国」（大阪大学総合学術博物館、10月31日～2021年1月30日）所蔵鳥瞰図・絵葉書等の複製パネル71点

- 「明石博高と島津源蔵～京の近代科学教育の先駆者たち～」
（※コロナ対策のため入館展示は中止し、日文研ウェブサイトでのオンライン企画展として開催。2021年3月30日～9月30日）神田外語大学、島津製作所創業記念資料館との共催。宗田文庫コレクションを中心に、明石博高の旧蔵品など約100点



7. ILL の受付料金の一部減額の実施

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応の長期化に伴い、外部者来館利用の休止期間中、当館所蔵資料の閲覧および研究のための共有を補う代替手段のひとつとして ILL 受付の際の請求金額の一部減額を実施している。本年10月より、当面の間、当館が受け付ける相互貸借・文献複写の請求金額に、当館からの発送にかかる郵送料を加えないことにより事実上の減額としている。

8. OCLC WorldCat へのデータ追加登録

OCLC WorldCat（2017年度登録開始）へ、昨年度後半から今年度にかけて増加した書誌・所蔵レコード約9500件について、追加登録を行った。



令和2年度国立民族学博物館図書室の活動について

1. 新型コロナウイルス感染対策

標記について、以下の対策を実施した。

- (1) 除菌ボックスを用いた、資料への紫外線照射
- (2) 閲覧室へのアクリルパーテーション、除菌ティッシュ、手指消毒用アルコールの設置

(1) 除菌ボックス



(2) 閲覧席のパーテーション



2. 資料の整備

- ・マイクロ資料の遡及入力について、図書 2,562 件、新聞雑誌 4 タイトル(125 件)の遡及入力を行った。
- ・リポジトリ次期システムの JAIRO Cloud(WEK03)移行作業について、移行に備え著者名データの修正等データの整備を行った。（移行は次年度に延期）

3. 博物館事業への図書資料の提供

博物館展示事業のために、様々な言語の聖書等合計 29 点の図書資料を提供した。また、博物館広報誌「月刊みんぱく」へ掲載のために図書資料の画像 2 点を提供した。

4. 研究アーカイブズ資料の受入・目録公開

令和2年2月「菊沢季生アーカイブ」資料1点追加受入（民族学資料）

以上